

日清食品カップ 令和7年度神奈川県小学生陸上競技交流大会競技者注意事項

- 1 規 則 本大会は、2025年度日本陸上競技連盟競技規則及び全国小学生大会の競技方法、運営方法に順じて実施する。ただし、児童である年齢を考慮した教育的配慮のもとに競技・運営をする。
- 2 練 習 練習は練習場または指定された場所を利用すること。
- 3 プロ訂正 プログラムのナンバーカードや氏名等に記載誤りがあった場合は、午前8時30分までに、受付に申し出ること。
- 4 招 集 (1)招集所は、100mスタート地点後方に設ける。(朝の受付とは別になる)
(2)出場者は自分の出場する種目ごとに、プログラム記載の招集時間内に招集所で自分の名前にチェックし、レーン表示腰ナンバーカードを受け取り、右腰後方に付ける。(安全ピンは招集所で用意する。)
(3)招集時間はトラック種目:競技開始35分前から20分前まで、フィールド種目:45分前から30分前まで。時間に遅れない様にする。その後、競技者係審判員の指示に従うこと。
- 5 退 場 競技役員の指示に従って退場すること。
- 6 アスリートビブス(1)アスリートビブスは受付時に配布する。今大会に限りアスリートビブスは返却しない。
(2)安全ピン(今大会では、アスリートビブス用安全ピンは普及部で用意する。レーン表示腰ナンバーカード用4本は招集所で普及部が用意する。競技終了後返却する)
(3)アスリートビブスは胸と背に配布時の状態で1枚ずつ確実につけること。
(4)トラック種目出場者はレーン表示ナンバーを腰部分の体側右後方につけること。
*レーン表示腰ナンバーカードは招集所にて配付。各レース後、安全ピンと一緒に普及部員が回収する。
- 7 リレー競技 リレー競技に出場するチームは「リレーオーダー用紙」1部を、午前9時までに提出すること。チーム責任者は忘れずに提出すること。(用紙は100mスタート側スタンド下、競技者係にある。提出も同じ場所)
- 8 競技方法 (1)計 時 トラック種目は写真判定で行う。
(2)リレー バトンの受け渡しは、30mのリレーゾーン内で行う。次走者はゾーン内でスタートしなければならない。男女の走る順序は自由とする。
(3)スタート ①トラック種目のスタートはクラウチングスタートとする。スターティングブロックは使用しなくても良い。
②スタートの合図はイングリッシュユールで行う。同じ競技者が2回不正スタートをした場合、その競技者は失格とし、オープン参加として走る。
(4)スパイク スパイクの使用を認める(ピンの長さは、トラック7mm以下、フィールド9mm以下)。スパイクは使用しなくてもよい。競技用シューズ規則(靴底規則)については適用しない。なお、素足での出場は認めない。雨天時はスパイクの使用が望ましい。
(5)走幅跳・ジャベリックボール投
①試技回数は2回とする。
②2ラウンド試技で行う。
③ジャベリックボール投は、競技場で準備されたものを使用する。個人での持ち込みは不可。やり投げ用ピットを使用し、助走は15m以内とする。競技場に準備してある炭酸マグネシウムをボールの先端につけてボール本体を持ちオーバーハンドスローで投げること。
(6) 80mH 小学生用ハードルを使用し、次の規定で行う。

スタートから第1ハードル	ハードルの高さ	ハードル間の距離	台数	最終ハードルからフィニッシュ
13m	70cm	7m00cm	9台	11m00cm
0m ~13m	~20m	~27m ~34m	~41m ~48m	~55m ~62m ~69m ~80m

(7) 走高跳

①跳躍方法は「はさみ跳び」で行う。着地は必ず足裏から着地すること。足裏から着地できない場合は無効試技とする。

②試技は各高さ2回連続で失敗したら競技終了とする。

③バーの上げ方は、次のとおりとする。(男女同じ)

④走高跳びのバーの上げ方

練習は1m00で行う。試技は1m00から行い、以降5cm刻みで上げていく。

1m35まで5cm刻みで上げ、それ以後は3cm刻みで上げる。

9 リレーチームについて (全国大会の大会要項より抜粋)

○リレーチームの編成は、都道府県で開催される“日清食品カップ”(都道府県)小学生陸上競技交流大会(以下、都道府県大会)に参加した時点でのリレーチームであり、大会主催者の承認なしに、メンバー変更等は認められない。また、全国大会は6名でのエントリーが可能であり(編成にあたっては、男女3名ずつとする)、都道府県大会にはできるだけ6名でのエントリーが望ましい。最終選考後の追加エントリーは認められない。

○リレーメンバーのうち、1名でも他種目に回った場合、そのリレーチームは全国大会への出場資格を失う。

10 その他

(1) トラック内での練習は、原則として次の通りとする。バックストレート側、7・8レーンハードル練習、6・5レーンスピード・リレー練習、3・2・1レーン周回。ホームストレート側、5～8スピード練習、3・2・1レーン周回練習とする。使用できる時間に制限があるので係員の指示に従う事。

(2) 映像・動画・画像の二次使用について

本大会主催者及び日本陸上競技連盟いずれかが認めた報道機関や大会の協賛・後援の各団体が撮影した大会の映像・動画・画像・記事・個人情報等を、主催者および主催者が認めた第三者が大会運営および宣伝等の目的で、大会ポスター・プログラム・パンフレット・大会報告等への使用、およびテレビ・ラジオ・新聞・雑誌・SNS・ホームページ等の媒体に掲載することがある。